可愛らしさと母親らしさの間
── 日本人の女性像について ──

グドゥルン・グレーヴェ

はじめに

ドイツのハンブルクで作家として活躍している多和田葉子は日本の女性の役割について次のように批判している。「日本では大多数の女性が息子に対してだけではなく，夫に対しても母親の役割を演じています。女性は母なるものというイメージで神聖化されていますが，私はそんなことはナンセンスだと思います」[1]。確かに日本ではその役割は女性の伝統的な宿命であると言えよう。女性の本質は子供を生むことであるとされる。子供を生まないことは日本的ではない，女性はどうしても子供を生まなければならない，という発言まであった[2]。母親の役割は非常に重要とされているので，自分の子供に対する行動だけではなく，夫との関係もその役割に決定されていると思われる。あるいは，それは夫の妻に対する期待と相互関係があると思われる。つまり，男性が女性と結ばれると，その男性は自分の母親から離れ，今度は妻に母親らしさを求める，という説明も考えられる。このような母親らしさは多くの外国で日本について書かれた著書でも話題になる[3]。しかしここではこのような妻と夫の関係についてではなく，女性像のあり方について論じたい。もしくは，アウトサイダーの目から見て，日本人の女性像はどのように現れているかということについて考察してみたい。

しかしこれによって，デールが『The Myth of Japanese Uniqueness』の中で指摘した，日本人の比類なさを強調したり，文化的ナショナリズムを特性とする「日本人論」に寄与したりするつもりはない。デールによると，「日本人論」には三つの特徴がある。つまり1）日本人は文化的にも社会的にも同種の民族であり，その本質は先史時代以来，変っていないという思いこみ。2）日本人はすべての他の民族と根本的に異なっているという考え。3）「日本人論」は外からの，日本のものでない資料による，日本人に対する分析に敵意を抱いている[4]。このような意味で，日本人の女性

は昔から少しも変わらず，世界中の女性と異なって，独特な特質をもっているという「日本人論」を立てようとは思わない。むしろ，日本人の女性像を観察して，どのような印象を受けるか，どのような経験的事実が指摘できるかについて論じたいと思う。さらに，その特に目立つ特徴は過去にさかのぼって，どのような原因が考えられるか，思想史的・社会的伝統によって説明できるかどうか，という問題について考えたい。このように進めながら，外国や日本で日本人の女性に当てはめられるステレオタイプを批判的に究明したい。このようなステレオタイプは例えば外国人が書いた日本についての本に見受けられる。ノンフィクションにも小説にもあると思われる。

日本人の女性と他の文化圏の女性，例えばヨーロッパの女性との間に大きな根本的な相違があるとは言えない。相違は段階的な相違にすぎない。また，日本のすべての女性に当てはまる一般化できる特異性を特定することもできない。女性の多くの性質はヨーロッパにもあるが，日本では傾向としてヨーロッパより強い，あるいは弱いということであろう。あるいはある特徴を持っている女性が日本ではヨーロッパより多い，もしくは少ないということであろう。従って，「母親らしさ」や「可愛い」などの言葉を使う際に，ステレオタイプを助長しないように注意する必要がある。

現代の日本の女性自身の理想と言えば，最初に述べた「母親らしさ」より，「可愛い」という言葉が浮んでくる。特に若い女性のうちには，「可愛く」ありたいと思っている女性は多いと考えられる。アメリカのあるジャーナリストは次のように書いた。

> 「多くの日本の女の子は可愛い（cute）と思われたがっている。それは若い女性にとって最高のほめ言葉である。可愛いという言葉には無邪気さや単純さという意味，ほとんど子供らしさという意味さえも含まれている。それらは女の子の場合，魅力的な特徴とされている（中略）。アメリカの女子大生は大人の女性（women）と呼ばれたがるのに対して，日本の女子大生は女の子（girls）のように振る舞ったり，自分のことを女の子と呼んだりする」

と，そのジャーナリストは指摘する[5]。

可愛さを目指すのは女性だけではない。可愛い女性を好む男性もかなり多いと考えられる。そのような傾向があるという証拠として，ほかにも色々あるが特に，『FRaU』という女性雑誌[6]のテストを分析したい。テストのタイトルは「あなたに，その能力はあるか。やっぱり〈可愛い〉女性が勝つ！」（1995年7月11日号）である。

そのテストを見れば，「可愛い」と言われるためにはどのような女性にならなければならないかがある程度明確になるに違いない。「可愛い」とは何か，その言葉をさらに浮き彫りにするために，可愛い女性というのは何か，という質問を主題にして，約百人を対象に，本プロジェクトの一部分として行なったアンケートの結果を紹介したい。

1.「可愛」から「可愛い」まで ― 語源を探って

この言葉の本来の意味から現在の使い方までを簡潔にまとめてみたい。まず，古代中国では「可愛」という言葉はどのように使われたか。『大漢和辞典』[7]を引けば，「愛すべき。愛することが出来る。又，かはいらしい。」という意味が載っている。そこに挙げられた例を一つ選んで述べよう。中国の最古の古典であり五経の一つである『尚書』の「大禹謨」の章からの引用が載っている。「可愛非君，可畏非民」[8]。これは禹が皇帝に言う言葉である。愛すべきもののうち，君子は最も愛すべきではないか，また，畏れるべきもののうち，民は最も畏れるべきではないか，とでも意訳すればいいだろう。ここでは「可愛」というのは臣下が君子に対して持つべき好意を指す。しかし「可愛」は下にいる人が目上の人に対する愛だけではなく，広い意味での人間の間の愛を指すだろう。

現代中国語には「可愛」(kě' ài) は二つの意味の使い方がある。『漢英詞典』[9]には「可愛的祖国」，つまり愛すべき祖国，と「多麼可愛的孫子！」，なんと可愛い子供だ，という例がある。この二つの例の「可愛」の使い方には微妙な違いがみられる。一つ目は一般的な愛を，ここでは母国に対する愛を表現している。二つ目の例を見れば，ここでは普遍的な愛ではないと言える。むしろ，ある人間が自分より小さくて弱い，例えば子供に対する気持ちを指す。この気持ちは本来の「愛」ではなく，子供を見たり子供の声を聞いたりする時の大人の自然発生的な好意の気持ちに過ぎないであろう。現代日本でも「可愛い」という言葉は多くの場合にこのような意味で使うに違いない。しかし「可愛」の，あわれみや他人への同情の表現としての使い方は中国語には一切ないのである。

『日本国語大辞典』[10]で「かわいい」を引けば，四つの意味が書いてある。1）あわれで，人の同情をさそうようなさまである。ふびんだ。2）人や動物に心がひかれて，大事にしたいという感じである。いとしい。3）(若い女性や子供の，顔や姿が) かわいらしい。4）(品物が) 小さくて，やさしく扱ってやりたい気持を起こさせる

さまである。かわいらしい。富山県・岐阜県・岡山県の方言には，気の毒，かわいそうという意味もある[11]。この四つの意味をまとめて言えば，「かわいい」という単語は大体，より強くて大きくて積極的な人間が，より弱くて小さくて不幸な受け身的な人間・動物または小さい品物に対して抱く好意の気持を指す。この気持を持っている人間はある程度優越した立場から，積極的・能動的に人間・動物・品物を扱ったり大事にしたり哀れんだりしている。この「かわいい」というのは，以上述べた『尚書』に，下にいる人が君子に対して持つべき愛の気持ちを意味する「可愛」とはかなり離れていると言えよう。

『日本国語大辞典』によると，「かわいい」は「かわゆい」の変化した語である。従って「可愛い」は当て字である。この漢字の意味は暗示的にのみ「かわいい」という言葉の意味に関連していると思われる。「かわゆい」という語は一説によると，カホハユシが変化した形である。顔がほてる気持だという意味から，物をまともに見るに耐えない，相手をいたいたしく思うという意味に転じたと言われている[12]。「かわゆい」には恥かしい，見るに耐えない，かわいそうである，そして愛すべきである，いとしい，かわいい，という意味がある[13]。まとめて言えば，「かわいい」もしくは「かわゆい」には「可愛」という漢字は当て字として最も相応しかったが，哀れみ・人の同情を引くようなさまという要素は中国語の「可愛」にはなく，日本語としてのこの漢字の使い方としてつけ加わった。

「かわいい」と並んで「かわいらしい」という形容詞もよく使われている。『日本国語大辞典』によると，それは1）美しさ，子どもらしさなどで，いかにも愛らしく感じられるさまである，2）小ささ，少なさなどで，ほほえましく感じられるさまである，という意味がある。「かわいさ」と「かわいらしさ」の違いは微妙であるが，「かわいらしさ」はむしろ外見に関して多く使われ客観性が強く，「愛したい」とか「ほほえみたい」という気持ちを引き起こすのに対し，「かわいさ」はむしろ「大事にしたい」，「あわれみたい」という主観的な気持ちを引き起こすと言えよう。

2．「可愛い」というのは何か ― テストとアンケートの分析

現代の日本のファッション雑誌に目を通せば，「可愛い」という形容詞は様々な形や使い方で現れる。『with』という女性雑誌[14]（2.1997）には「〈男が本気になる女〉と〈かわいいだけで終わってしまう女〉の違い」（318-327頁）というタイトルの記事がある。その記事によると，たくさんの人から「かわいい」と言われる女性はどこに

でもいる。それらの女性には，すぐ他人にものを頼んだり甘えたりするタイプもいれば，気配りのきく家庭的なタイプもいる。このような振る舞い方で媚を売っている女性で外見もよければ，「〈かわいい子〉どまり」という女性とされる。それは男性が望むタイプではない。結論は，「かわいい」というのはいい意味の評価であるが，「本命の彼女」に選ばれるためには，「それにプラスして人間的な魅力が必要」であると指摘される（319頁）。これは女性読者による座談会の結論である。

「かわいい」というのは表面的な，最初の印象に関わる，きれいな包装のようなものにすぎず，これだけでは愛されるには足りないとされている。ところが，男性の意見を見ると，いささか違った「かわいい女」の像が見えてくる。「かわいさは愛されるためのキーワード。だけど作りもののかわいさでは本気の恋には発展しない」（322頁）というふうに，内面の健気さやかわいらしさは外見的な「ブリっ子」[15]のかわいいフリと違うことであると指摘されている。「底の浅いブリっ子はすぐバレる」が，女性の本当のかわいらしさは目に見えるものというより，徐々にわかってくるものである，とされている。素直で控え目な女性，そして男性が持っている「女性に甘えたいと思う気持ちと，守ってあげたいという二つの気持ち」に，バランスを与える女性がかわいいと思われている。男性の感じるこのようなかわいらしさと，女性がよく思い込んでいるかわいらしさ（例えば人を「何何ちゃんね」というふうに名前でちゃんづけで呼ぶこと）は違う，と袴田吉彦という俳優は強調している（323頁）。このように，男性は外見の浅いかわいらしさと内面の本物のかわいらしさを区別している。それと違って女性はかわいらしさを外見的なものではあるが，しかし愛されるには必要な一部分であると考えている。男性が内面的なかわいさであると思っているものと，女性が「かわいさ」ではなく，「人間的な魅力」と名付けているものは同じものであろう。したがって，女性が持っている「かわいさ」のイメージは男性が持っているイメージほど良くない，あるいは深くないと言えよう。「かわいい」という言葉の使い方は性によって多少違うのである。

『CLASSY』という女性雑誌（3.1997）には，「〈かわいい〉ブランド・スタイル」という特集（「20代だから着られる服を探す」）がある。『CREA』という女性雑誌（3.1997）には，「可愛くて，おしゃれで，わたしに似合う・モードを探せ！」という特集がある。ここでは女性の「かわいい」ではなく，品物の「かわいい」である。注意すべきは，そのものを身につけるのは女性である。「かわいい」というのは，男性の外見・内面または男性が身につけるものについてはほとんど使われていないと言えよう。

また，「可愛」という字を使った新しい造語もある。『JJ』という女性雑誌(3.1997) の「ダサ可愛 BANALって何だ？」という特集は「ちょっと前はカッコ悪かった」と言われる，カラフルな柄物の，多少はでな服装を紹介する (50-63頁)。「ダサ可愛 BANAL」という言葉は次のように説明される。「ここに並んだ柄の小物たち一趣味がいいとか，センスがいいとか，そういうこと超越してます。でも可愛い。新しい。そう思えたら，バナル＝ダサ可愛いを受け入れられる人です。懐かしい，そう感じたら……。モードという流行，行きつくところまで，来ちゃいました」(50頁)。70年代の壁紙模様を転用した服などの写真を見れば，それをファッションのポストモダン・デザインと名付けられるだろう (図 6 を参照)。「ダサイ」・「可愛い」と「バナル」の三つの言葉を並べるのもファッション・メーカーが古い要素を使って無理にでも新しい作品やそのための名前としての言葉を作ろうとしていることを証明している。

様々な「かわいい」という言葉を使っている例を見て興味深いのは，漢字の書き方もひらがなの書き方もあることである。仮の推定だが，ひらがなの「かわいい」は表面・外見の性質を指し，漢字で書いた「可愛い」はもっと深く良い意味での，内面的な性質をさすと考えられる。しかし多くの場合はこのような意識的な区別がないと言えよう。ここでは「可愛い」という漢字の書き方がみられる。ダサイけれども，可愛くて，大事にすべき物であるとアピールするために，漢字が使われたと考えられる。

では，上に述べた『FRaU』という女性雑誌の「あなたに，その能力はあるか。やっぱり〈可愛い〉女性が勝つ！」というテストを分析してみたい。注意すべきは，そのテストを作ったのは男性であるということである。従って，そこに反映されているのは男性が望んでいる女性もしくは男性が作った女性像であると言えよう。テストの最初に「可愛い」という言葉の定義がある。この「言葉ほど，女性の年代によって微妙に意味合いを変えるものはないのではないだろうか。20代にもなれば単なる容姿の問題だけではなくなる。性格，身のこなし (中略)，あらゆるものが総合されて〈可愛い女〉かどうか評価されるのだ」(32頁)。この裏にある考え方は，若い時は女性の可愛さは外見・容姿で決められるが，年を取るにつれて，やはり外見の可愛さは自然に薄れるので，性格，身のこなしなど，つまり内面的な可愛さが段々大切になって，女性はその方向へ努力しなければならないという考えではないか。ここでは「可愛い」は漢字で書かれているので，愛する気持ちを起こす，内面的な質を指すだろう。

このテストでは，女性の内面的な可愛さが反映されて，女性は自分は「果たして可

愛いのかどうか」，ということを自己診断できる。「可愛い」と同義的に「プリティ・ウーマン」が使われている。「男なら誰でも憧れる，プリティ・ウーマン。そのプリティ・ウーマンの要素は，女性なら誰でも持っている（中略）。あなたのプリティ・ウーマン度はどの程度だろうか？」（32頁）というふうに，本来外見的な性質をさす「プリティ」という形容詞はここでは内面的な女性の性質を表わす。女性の誰もがその要素を持っているので，女性は男性に「ほれぼれさせ」ることができるために，「プリティ・ウーマン度」（＝可愛さ）を磨く，つまり努力する必要がある。

では，テストの幾つかの質問に注意を向けたい。どのように答えたら，「可愛い女」と判断されるのか。点数が低ければ低いほど，「プリティ・ウーマン度」が高くなる。どのような質問にどのように答えれば，低い点数が出るかというふうに探りたい。まず，アンドレ・フランソワの「タイム・フライズ」（時間が飛んでいる，1975年，図5を参照）という不思議な絵がある。指を組んでいる人の絵である。その人の頭は針のない時計である。針は頭の上にあり，飛んでいる鳥のように見える。そのインスピレーションテストの質問は，この絵に描かれている人は

a）何かを考えているのか，

b）誰かをじっと見つめているのか，

c）祈っているのか，

である。a）と答えると点数が最も高く，b）の場合に最も低い。つまり，人が何かを考えていると推定する女性はあまり可愛くないとされ，もっと軽い気持ちで，その人はただ誰かを見つめていると推定する女性は可愛いとされている。次は飛んでいる針の意味を聞く質問である。

a）失った時間は取り戻せない，

b）時は今もどんどん過ぎている，

c）この先時間はまだまだある，

と三つの選択肢がある。c）と答えた場合の点数が最も低く，a）の場合が最も高い。と言うのは楽観的に時間はまだあると答える女性は可愛く，悲観的に過ぎた時間は失った時間であり，もう取り戻せないと答える女性は可愛くないとされている。次に男に対する態度を探る質問を見よう。男のすべてを独り占めしたくて，恋人を殺す女はa）純粋，b）性悪，であるかという質問に，a）と答えた女性，つまり，男性のために全力を尽くすことは純粋であると考えている女性は可愛いものになっている。仕事一筋で無趣味な男はa）野心的であるか，b）不器用であるか，という問いに，a）と答えたほうが可愛さがあるのである。従って，男性の弱いところでも肯定

的に判断している女性は可愛いとされている。自分の歳に対しても，肯定的に考えなければならないのであろう。年とともに，自分の顔にできるしわはａ）美しいか，ｂ）醜いか，という問いに，可愛い女性はもちろんａ）と答えるのである。このような質問や答えるべき答えをまとめて考えれば，女性は自分の歳を取ることについても肯定的に反応しなければ可愛くないとされている。楽観的に，浅く考えている，男性に対しても寛容的なそして気配りのある態度を取る女性のほうが，悲観的に，深く考える，男性を批判する女性より可愛いとされている。

テストを受けた女性は点数によって，Ａ，Ｂ，Ｃという三つのタイプに分けられる。「プリティ度上々」のＡになった女性なら，デートの時に彼が次の日の仕事が早いので，早めに帰ると切りだせば，次のように反応すると推定されている。

> 残念そうにうつむいてから，すぐに笑顔で言う。「まあ，仕事が相手じゃ分が悪いわね。今夜は潔く引き下がりましょう。けど，次回は仕事に引き下がってもらってね。でないと淋しくて他の男のところへパタパタ飛んでっちゃうわよ」。そして彼女は軽く彼の頬にキスして駅へと歩きだす。

男には最も好ましい反応と言えよう。「プリティ度もう一息……」のＢタイプは同じ場面で，次のように答えるだろう。

> 「いいわよ。私もちょうどやりたい事あったし。それに疲れたしね。じゃあ仕事がんばってね」。

この答えを聞くと男性は，女性が本心を偽っている，と思い，このように冷たく解放されることによって，彼女がデートを楽しまなかったではないかという不安感をもたされるという。Ｂタイプの女性はあまり可愛くないとされている。Ｃグループの「いまひとつのプリティ度」の女性はこの場合に，次の「無遠慮な言葉を浴びせる」だろう。

> 「なんだ，早く言ってくれればいいのに。そしたら，別に今日会わなくても良かったわよ」，もしくは「また仕事？じゃあ今度いつ会えるの？」。

このような可愛げのない女性は次のように描かれている。「自己主張の強すぎる女だ。

自分のポリシーをふりかざして，男にそれを強要する女は小生意気で憎らしい」。つまり，憎らしい（憎い）は可愛いの反対とされている[16]。そして素直に謝れずに弁解する女性も可愛げのない女性とされている。なぜ男性は自分の意見に固執する女性に対してこのように厳しく判断するかというと，それにも説明がある。「いくら男女平等の世の中とはいえ，男個人はまだまだ封建的。女の口ごたえをこざかしいと思う男は山といる」。すなわち，男性は女性からの反論を許さず，ある程度の優越を要求しているのである。

では，男性はどのような女性を好むかというと，「素直さの残る女は，何歳になっても男から見れば守ってやりたいような可愛さを感じるのだ」。また「素直」という言葉が「可愛い」との関連で出てくる。そして女性の可愛さは男性の「守りたい」という本能的な気持ちを引き起こす，とされている。「素直」という言葉は飾り気なくありのままなこと，心の正しいこと，そしておだやかで人にさからわぬこと[17]という意味がある。すべての意味を通じて，素直というのは自然な，無自覚的な特質であると思われる。従って，このようなありのままの自然な素直さの残る女性が可愛いとされていることから，可愛さは意識的につくられたものではないと結論できる。しかし，Aタイプの「プリティ度上々」の女性には次のような助言がなされている。男性が女性に飽きないために，女性は「もっともっと可愛い女を研究し，演じる努力をする以外に処方はない」[18]。つまり，女性は可愛さを研究しなければならない，意図的に演じるべきであるというのである。この考え方は，無意識な素直さの残る女性が可愛い，という上に述べた意見とかなり矛盾している。この矛盾の説明として考えられるのは，このテストを作成した男性は女性に，可愛さを努力して磨くことを期待していながらも，その可愛さを努力せずに生まれつき自然に備わっているもののように見せ掛けてもらいたいのであろう。簡単に言えば，騙されたいということになると考えられる。この発想はすべての男性に該当するかどうかという問いにはここでは答えられないが，ある程度男性の一般的な考え方を反映しているのではないかと思える。

以上述べた女性雑誌は多少，現代の特に若い男女の態度を反映している。つまり，「可愛い」という言葉の使い方が明かになる。逆に，男女の態度はこのようなファッション雑誌から影響を受けるということも忘れることはできない[19]。男女の考え方と雑誌の内容の間に，相互作用があると言えよう。現代の女性像が多分にファッション雑誌によって形成されているとすれば，「可愛い」という言葉の意味についても言えるのではないか。

その言葉の意味をさらに浮き彫りにするために，最初に述べた「可愛い女性は

……？」というアンケートの結果をまとめて紹介したい。41組の反意語についてそれぞれ五つの選択かこみのどれかにマークを付ける形式だった。

例：　可愛い女性は：　　きれい　□□□□□　あまりきれいではない
　　背が高い　□□□□□　背が低い
　　若い　□□□□□　若くない　（など）

例えば，可愛い女性は「若い□□□□□□若くない」とあって，「若い」と「若くない」の間に五つのかこみがある。可愛い女性は「若い」と思う場合，左端のかこみに，「どちらかというと若いほうである」と思う場合は，左から二番目のかこみに，「若さは関係ない」と思う場合は，真ん中のかこみに，「どちらかというと若くない」と思う場合は，右から二番目のかこみにマークを付けることになっている。このアンケートは立命館大学の学生および教職員を対象に行い，90人から回答を得ることができた。22才未満の女性が32名，22才以上の女性が20名，22才未満の男性が19名，22才以上の男性が19名であった（図１－４を参照）。22才を区切りにしたのは，22才で学生も就職活動につれていわゆる社会人の態度を取りはじめるという考えに基づいている。サンプルが90名という少数であるので，決定的な結果とは言えず，おおよその傾向を示すものでしかない。また，取り上げた反意語の３分の１以上について，多くの人は，真ん中のかこみにマークをつけたので，それらの形容詞などは可愛さと関係がないと思われ，このまとめから排除することにする。このアンケートの結果から見て，「可愛い女性」はどのようなものとされているか。

まず，外見的な要素について述べよう。女性の半分は「きれいであること」は可愛さと関係がなく，残りの半分は可愛い女性は「きれい」と思っているのに対し，38名の男性のうち，11名（29％）だけが可愛さは「きれい」と関係がなく，残りの27名（71％）は可愛さは「きれい」と結びついていると思っている。

90名のうち，43名（48％）は「背の高さ」は関係ないと思い，39名（43％）は可愛い女性は「背が低い」と思っている。ここでは，男女の意見に大きな違いはない。

可愛い女性は「やせている」か「ふとっている」かという問いに，大多数の人は関係がないと答えたが，22才未満の15名（51名のうち，29％）は可愛さの条件として「やせている」ことを挙げ，22才以上の８名（39名のうち，21％）は「ふとっている」と答えたが，逆に22才未満で「ふとっている」と答えたり，22才以上で「やせている」と答えたりするケースは殆どない。これはスリムであることへの若者の憧れという一般的な理想を反映していると言えよう。

図―1　アンケートの結果

女性・22才未満（32名）

		はっきりと	どちらかというと	関係ない	どちらかというと	はっきりと	
可愛い女性は：	きれい	4	13	14	1	0	あまりきれいではない
	背が高い	1	1	17	10	3	背が低い
	若い	6	9	17	0	0	若くない
	ファッションに関心がある	7	15	9	1	0	ファッションに関心がない
	流行を気にする	1	13	14	4	0	流行を気にしない
	贅沢	0	1	15	12	3	質素
	色っぽい	0	1	9	17	5	色っぽくない
	清楚な感じ	14	12	6	0	0	はでな感じ
	賢い	4	6	17	4	1	賢くない
	意思がしっかりしている	4	7	14	4	3	優柔不断
	おとなっぽい	0	0	15	10	7	子供っぽい
	お母さんタイプ	0	1	9	12	10	むすめタイプ
	我慢強い	4	9	14	4	1	気が短い
	高い声で話す	4	19	9	0	0	低い声で話す
	大きな声で話す	0	5	14	10	2	小さな声で話す
	よく働く	4	10	14	4	0	あまり働かない
	気を使う	4	14	12	2	0	気を使わない
	あつかましい	0	5	7	15	5	ひかえめ
	無邪気	20	9	2	1	0	したたか
	行儀がいい	9	16	6	1	0	行儀が悪い
	教養がある	4	9	17	2	0	教養がない
	気難しい	0	1	7	15	9	気安い
	性格をみがく	8	11	8	3	2	外見をみがく
	勇気がある	7	4	16	5	0	勇気がない
	理屈っぽい	0	0	17	13	2	細かいことを言わない
	やさしい性格	17	11	4	0	0	きつい性格
	明るい	22	10	0	0	0	暗い
	打算的	0	3	11	7	11	打算的ではない
	強そうにみえる	1	1	11	13	5	弱そうにみえる
	実力がある	0	5	21	6	0	実力がない
	自己主張が強い	3	4	19	4	2	自己主張が弱い
	心が広い	10	11	11	0	0	心が狭い
	正直	15	8	5	4	0	嘘をつく
	散漫である	0	5	17	6	4	集中力がある
	積極的	6	7	11	6	2	受け身的
	男より劣っている	2	5	22	2	1	男より優っている
	魔性	1	4	9	11	7	善良
	やせている	3	5	21	3	0	ふとっている
	近寄りがたい	1	0	1	12	18	人なつっこい
	利己的	1	7	13	10	1	自己犠牲的
	スポーツをする	6	5	18	2	1	スポーツをしない

図―2　アンケートの結果

女性・22才以上（20名）

可愛い女性は：	はっきりと	どちらかというと	関係ない	どちらかというと	はっきりと	
きれい	1	9	9	1	0	あまりきれいではない
背が高い	0	3	10	6	1	背が低い
若い	2	1	17	0	0	若くない
ファッションに関心がある	3	7	10	0	0	ファッションに関心がない
流行を気にする	1	6	7	6	0	流行を気にしない
贅沢	0	1	8	11	0	質素
色っぽい	0	5	4	9	2	色っぽくない
清楚な感じ	7	9	4	0	0	はでな感じ
賢い	0	9	7	4	0	賢くない
意思がしっかりしている	0	7	9	3	1	優柔不断
おとなっぽい	0	1	8	8	3	子供っぽい
お母さんタイプ	0	1	4	10	5	むすめタイプ
我慢強い	1	8	9	2	0	気が短い
高い声で話す	1	11	7	1	0	低い声で話す
大きな声で話す	0	6	10	4	0	小さな声で話す
よく働く	5	9	4	2	0	あまり働かない
気を使う	3	13	2	1	1	気を使わない
あつかましい	0	2	7	9	2	ひかえめ
無邪気	12	5	3	0	0	したたか
行儀がいい	4	5	6	5	0	行儀が悪い
教養がある	1	6	10	3	0	教養がない
気難しい	0	0	4	9	7	気安い
性格をみがく	8	8	2	2	0	外見をみがく
勇気がある	2	8	6	2	1	勇気がない
理屈っぽい	0	0	2	13	5	細かいことを言わない
やさしい性格	14	4	1	1	0	きつい性格
明るい	16	4	0	0	0	暗い
打算的	0	0	3	9	8	打算的ではない
強そうにみえる	1	2	10	5	2	弱そうにみえる
実力がある	0	4	14	2	0	実力がない
自己主張が強い	1	3	12	3	1	自己主張が弱い
心が広い	7	12	1	0	0	心が狭い
正直	11	5	2	1	1	嘘をつく
散漫である	1	2	12	4	1	集中力がある
積極的	4	2	9	4	1	受け身的
男より劣っている	1	3	14	1	1	男より優っている
魔性	1	4	3	5	7	善良
やせている	0	1	15	4	0	ふとっている
近寄りがたい	0	0	0	9	11	人なつっこい
利己的	1	2	11	5	1	自己犠牲的
スポーツをする	3	4	12	1	0	スポーツをしない

図－3　アンケートの結果

男性・22才未満（19名）

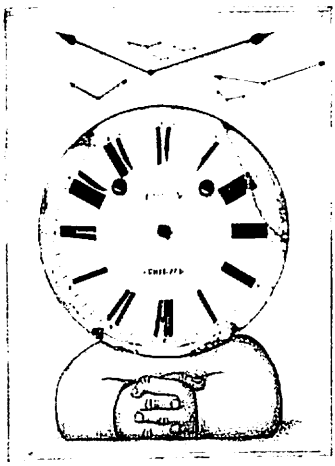
		はっきりと	どちらかというと	関係ない	どちらかというと	はっきりと	
可愛い女性は：	きれい	0	12	7	0	0	あまりきれいではない
	背が高い	0	0	7	10	2	背が低い
	若い	4	4	10	1	0	若くない
	ファッションに関心がある	0	6	9	3	0	ファッションに関心がない
	流行を気にする	1	1	12	5	0	流行を気にしない
	贅沢	0	0	9	6	3	質素
	色っぽい	1	2	11	3	2	色っぽくない
	滑楚な感じ	7	10	2	0	0	はでな感じ
	賢い	2	5	12	0	0	賢くない
	意思がしっかりしている	4	5	7	3	0	優柔不断
	おとなっぽい	1	1	5	10	2	子供っぽい
	お母さんタイプ	1	0	6	9	3	むすめタイプ
	我慢強い	2	5	10	2	0	気が短い
	高い声で話す	2	4	10	3	0	低い声で話す
	大きな声で話す	1	3	10	5	0	小さな声で話す
	よく働く	2	5	11	0	1	あまり働かない
	気を使う	1	8	4	4	2	気を使わない
	あつかましい	0	3	8	7	1	ひかえめ
	無邪気	6	11	2	0	0	したたか
	行儀がいい	3	8	7	1	0	行儀が悪い
	教養がある	1	8	9	1	0	教養がない
	気難しい	0	0	6	11	2	気安い
	性格をみがく	5	7	7	0	0	外見をみがく
	勇気がある	2	6	9	2	0	勇気がない
	理屈っぽい	0	0	10	6	3	細かいことを言わない
	やさしい性格	9	8	2	0	0	きつい性格
	明るい	11	8	0	0	0	暗い
	打算的	0	3	7	7	2	打算的ではない
	強そうにみえる	0	3	7	9	0	弱そうにみえる
	実力がある	0	3	15	1	0	実力がない
	自己主張が強い	2	5	11	1	0	自己主張が弱い
	心が広い	7	7	5	0	0	心が狭い
	正直	8	6	4	1	0	嘘をつく
	散漫である	0	3	9	4	2	集中力がある
	積極的	3	5	7	2	1	受け身的
	男より劣っている	0	1	15	2	1	男より優っている
	魔性	0	4	5	5	5	善良
	やせている	1	6	11	1	0	ふとっている
	近寄りがたい	0	1	1	10	7	人なつっこい
	利己的	1	3	12	2	1	自己犠牲的
	スポーツをする	5	3	8	2	1	スポーツをしない

図－4　アンケートの結果

男性・22才以上（19名）

		はっきりと	どちらかというと	関係ない	どちらかというと	はっきりと	
可愛い女性は：	きれい	5	10	4	0	0	あまりきれいではない
	背が高い	0	3	9	3	4	背が低い
	若い	5	7	7	0	0	若くない
	ファッションに関心がある	2	10	4	2	1	ファッションに関心がない
	流行を気にする	1	4	5	8	1	流行を気にしない
	贅沢	0	1	11	6	1	質素
	色っぽい	2	5	6	4	2	色っぽくない
	清楚な感じ	6	7	3	3	0	はでな感じ
	賢い	4	7	6	2	0	賢くない
	意思がしっかりしている	3	4	8	4	0	優柔不断
	おとなっぽい	1	5	4	8	1	子供っぽい
	お母さんタイプ	0	3	7	6	3	むすめタイプ
	我慢強い	1	8	9	1	0	気が短い
	高い声で話す	5	6	8	0	0	低い声で話す
	大きな声で話す	1	1	10	5	2	小さな声で話す
	よく働く	3	7	7	2	0	あまり働かない
	気を使う	8	6	0	3	1	気を使わない
	あつかましい	1	4	2	6	6	ひかえめ
	無邪気	6	12	1	0	0	したたか
	行儀がいい	5	9	5	0	0	行儀が悪い
	教養がある	5	7	6	1	0	教養がない
	気難しい	0	2	2	10	5	気安い
	性格をみがく	2	6	10	0	1	外見をみがく
	勇気がある	3	5	10	1	0	勇気がない
	理屈っぽい	0	2	4	8	5	細かいことを言わない
	やさしい性格	10	7	2	0	0	きつい性格
	明るい	13	5	1	0	0	暗い
	打算的	1	1	6	4	7	打算的ではない
	強そうにみえる	0	3	10	5	1	弱そうにみえる
	実力がある	1	7	8	2	1	実力がない
	自己主張が強い	2	6	5	6	0	自己主張が弱い
	心が広い	6	9	3	0	0	心が狭い
	正直	7	9	3	0	0	嘘をつく
	散漫である	0	2	8	7	2	集中力がある
	積極的	2	7	3	5	2	受け身的
	男より劣っている	1	2	13	2	1	男より優っている
	魔性	2	4	5	3	5	善良
	やせている	0	5	10	4	0	ふとっている
	近寄りがたい	0	1	5	9	4	人なつっこい
	利己的	2	1	7	8	1	自己犠牲的
	スポーツをする	1	2	14	0	2	スポーツをしない

図－5



図－6

若さに関しては，意見が性や年令によって異なる。可愛い女性は「若い」と思う22才未満の男性は８名（42％；関係ないと思うのは10名，53％），22才以上の男性は12名（63％；関係ないと思うのは７名，37％），22才未満の女性は15名（47％；関係ないと思うのは17名，53％），22才以上の女性は３名（15％；関係ないと思うのは17名，85％）である。これで見ると，若さを最も大きな要件にしているのは22才以上の男性であり，同年令グループの女性は年令に関して最も寛容である。

かなりはっきりしているのは色っぽさについての意見である。可愛い女性は「色っぽい」と思う人は16名（18％）だけで，関係ないと答えた人は30名（33％），「色っぽくない」と思う人は半分近くの44名（49％）である。そのうち，可愛さを色っぽさと結びつける22才未満の人は４人（10％）しかいないのである。従って，若い人にとって，理想の可愛い女性には色っぽさが必要ではないと解釈できるだろう。現在のファッション雑誌に映っている男性や女性のモデルを見れば，彼らは両性具有どころか，無性のもののようにも見えると言えよう。アンケートの答えにも同じような傾向がみられると思われる。

次に，内面性にかかわる要素について触れることにするが，ほぼ全員の意見が一致しているのは，可愛い女性はあかるくてやさしい性格の持主で，心のひろい，人なつっこい人間であるという四つの点である。

意見のぶれが最も小さいのは，可愛い女性は「したたか」ではなく，「無邪気」であるということで，殆どすべての人がそう答えた。しかし，女性32名（62％）にとって「はっきりと無邪気」であるが，そう答えた男性は12名（32％）しかいなく，23名（61％）にとっては「どちらかというと無邪気」である。したがって，男性と女性の可愛い女性像はやや違うのである。男性にとって，女性の無邪気さは可愛さにそれほど大切ではないと考えられる。

では，可愛い女性はおとなっぽい，お母さんタイプなのか，それとも子供っぽい，むすめタイプなのか。前者であると思っている人はほんの僅かであり，22才以上の男性のうち６名（32％）だけが可愛い女性は「おとなっぽい」，３名（16％）が「お母さんタイプ」であると答え，半分以上の人は，可愛い女性は「子供っぽく，むすめタイプである」と答えた。また，男性の半分ぐらいが，声の低さや高さは可愛さと関係がないとしたが，52名の女性のうちでそう思っているのは16名（31％）しかいない。残りの大多数の女性は，可愛い女性は「高い声で話す」と答えた。ともかく男性の半分ぐらいは「ブリっ子」のわざとらしい高い声を可愛さの特徴として認めず，女性のほうが声をわざと高くするブリっ子の振る舞いを可愛さとつなげていると思われる。

簡単にまとめれば，可愛い女性は傾向として，どちらかというと，きれいで，背が低く，どちらかというと弱そうにみえ，若く，色っぽくなく，贅沢であるよりは質素で，はでではなく清楚な感じがし，気を使い，ひかえめで，行儀がよく，教養があり，外見より性格をみがき，打算的でなく，嘘はつかず正直で，魔性的というより善良な女性である。

全体的に「可愛い女性」は何かという質問に対する答えはある程度明確になったが，男性と女性の間，あるいは22才未満と22才以上の人の間の意見の違いは予想したほど大きくはなかった。それは対象とした人数の制約にもよるだろう。そして，大学関係者だけに限定したことによって，アンケートの結果は必然的に偏っているとも言えよう。男性にとって女性の可愛さはむしろ内面的な性質であるが，女性にとってそれはむしろ外見や振る舞い方の性質である，という推測にも明確な裏付けがないのである。それどころか逆に，「若さ」と「きれいである」についての女性の反応を見れば，若くなくきれいでなくても可愛い女性でありうる，という主張さえ読み取れなくもない。ただ，可愛い女性は「性格をみがく」か，それとも「外見をみがく」かという質問に，１名の男性だけが「外見をみがく」というところにマークをつけたが，女性は７名（13％）がそう答えたということから，この推測がある程度当たっているとはいえるだろう。さらに，可愛い女性は「ファッションに関心がない」と思う男性は６名（16％），「流行を気にしない」と思うのは14名（37％）もいるのに，女性の回答は，可愛い女性は「ファッションに関心がない」が１名，「流行を気にしない」が10名（19％）であった。つまり，男性より女性にとって，可愛さはファッションや流行など，外見と関係があると思われていると言うことはできよう。

上に述べたこととも関連して，男性は女性より可愛い女性を高く評価しているのではないかという結論は可能である。可愛い女性は「魔性であり」，「嘘をつく」と答えた男性は女性と比較して少なかった。可愛い女性に「実力がある」と答えた男性は11名（38名のうち，29％），そう思う女性は９名（52名のうち，17％）しかいないのである。さらに，可愛い女性は男性より優っていると答えた男性は６名（16％），そう思う女性は５名（10％）にすぎない。可愛い女性に「勇気がない」と思う男性は３名（８％）しかいないが，女性は８名（15％）である。「可愛い女性」の人間性や能力については男女ともやや批判的に見ているが，男性以上に女性の見る目が厳しいと言えよう。

日本の女性と言えば，「可愛さ」だけではなく，「良妻賢母」という，明治時代以来の理想である思想も思い浮ぶ。今日でも多和田葉子が強調したように，女性には母親

の役割を演じることが期待されている。では，このような母親らしさと可愛さの間に，どのような関係があるのか。アンケートの結果を見れば，その二つは互いに矛盾して，互いに排除するのではないか，というふうに結論しやすいのである。しかし今まで明かになったように，「可愛さ」は外見・内面・振る舞い方の，はっきりと定義された一つの要素ではなく，「可愛さ」にはむしろ様々な現れ方があると言えよう。一つは，むしろ若い女性の，媚を売るような，子供っぽい可愛さである。このような女性は普通，母親ではない。もう一つは，母親の役割を演じなければならない女性でも同時に持つことのできる，むしろ生れつきの可愛さである。無邪気・やさしさ・明るさという特質は，既婚の，母親である女性にもありうるだろう。このように，二つ目の場合，母親らしさと可愛さは両立できると言えよう。

男性にとって，可愛さは多くの場合，性格に関わる，生れつきの特質であり，女性にとってそれはむしろわざとらしく，媚を売るための見せ掛けの飾りか他人に気に入られるためのテクニックであろう。女性は可愛い振る舞い方によって，「母親らしさ」では得られないものを手に入れようとしていると思われる。いつか近い将来に，母親になって，子供や夫に対してその役割を演じなければならなくなるだろうと知っているだけに，若いうちは甘えたり，男に守られたり，責任のない子供のように，したい放題の生活を送ったりしたいので，ブリっ子のように可愛い行動をとると思われる。また，可愛く振る舞えば，女性に母親らしさだけを期待している男性ではなく，やさしい夫を見つけるだろうと女性は無意識的に選択をしていることも考えられる。この場合，可愛さと母親らしさは対立している。

このように，可愛さに関して，男性には内面的なイメージが強く，女性にむしろわざとらしく可愛く振る舞うというイメージがあって，女性と男性の間に大きな誤解があると言えよう。男性はその女性の「ブリ」を好まない場合が多いと思われる。この誤解は，よく問題にされる，性によって異なる教育が引き起こす日本人の男女間のコミュニケーション・ギャップ[20]を象徴していると思われる。

3．例えばドイツとの比較

以上の状況を他の国，例えばドイツと比較すれば，可愛さなどに関わる日本の女性像はさらに明かになるだろう。和独辞典を引けば，「可愛い」という言葉には幾つかの意味がある。それは，süß（甘美な，英語 sweet），lieb（親愛なる），reizend（魅力的な，チャーミングな，すばらしい），entzückend（恍惚たらしめる），niedlich

(小さくて感じのいい，愛くるしい)，hübsch（きれいな）などである。女性（Frau）との組み合わせを考えられるのは süß と niedlich 以外であるが，現在では reizend と entzückend という形容詞はあまり使わないので，結局 lieb と hübsch しか残らない。しかし，eine liebe Frau は聖母マリアを連想させがちで，「心の暖かい，やさしくて親切な女性」を意味し，eine hübsche Frau は単にきれいな女性である。従って，「可愛い女性」という言葉には適切なドイツ語の翻訳がないのである。

1996年のノンフィクション部門のベストセラーの第1位は "Gute Mädchen kommen in den Himmel, böse überall hin" [21] という刺激的なタイトルの若い女性向けの助言書であった。そのタイトルを訳せば，「いい女の子は天国へ行くが，悪い女の子はどこへも行ける」となる。いい女の子であれば，その褒美として死んでから天国に行くことができるが，生きている間は何も得することがない。しかし悪い女の子であれば，つまり，他人から期待されるように振る舞うのではなく，好きなように勝手に生きていれば，どこへも行け，好きなものが手に入れるので得だ，という意味だろう。このようなアドバイスは大げさに聞こえるだろうが，現在のドイツの女性の態度を反映していると思われる。

ドイツでは，男女関係には「守りたい」，「守られたい」，「甘えたい」などという相手に依存する気持ちがあまり強くないと言える。新聞のパートナー探しのコーナーを眺めれば，女性がどのように自分をアピールしているか，また男性がどのような女性を求めているか，の一端をうかがうことができる。(但しこのコーナーはパートナーを探すものであって，男女とも必ずしも結婚相手を求めているわけではない。大事なことは結婚という制度ではなく，お互いに平等同権であるパートナーを得ることなのである。) ここで相手を探す女性はどのような形容詞で自分をアピールするのか。まず金髪（blond)，スリム（schlank)，魅力的（attraktiv)，シック（schick)，きれい（schön）などという言葉で自分の外見を描く。他方では内面的な特質を，成功をおさめた（erfolgreich)，聡明（intelligent)，自信がある（selbstbewußt)，スポーツ好き（sportlich)，多面的（vielseitig)，自立している（selbständig)，平凡でない（ungewöhnlich)，ユーモアがある（humorvoll）などというふうに売りこむ。このように見てくると，女性は自分が強くて自分一人でも独立した生活ができると主張したいのだろう。相手を求めているのは守られたいという気持ちによるのではなく，むしろパートナーと一緒に二人で人生を楽しみたいからである。反対に，順応性がある（flexibel)，愛らしい（liebenswert)，女の子っぽい（mädchenhaft）などという，いくらか柔かい言葉も見られなくはないが少ない。全体の印象をまとめて言えば，男性

に合わせていくような女性ではなかろう。

では男性はどのような女性を探しているかというと，ほとんど同じ形容詞が並べられる。男性は聡明な，魅力的な，自信のある，自立しているパートナーを求め，そして女の子っぽい，愛らしい女性も探している。ただ，「成功をおさめた」，「平凡でない」という言葉は見当らない。つまり男性はキャリアーウーマンではなく，むしろ心の暖かい（warmherzig），思いやりのある（einfühlsam），官能的な（sinnlich），繊細な（sensibel），心楽しい（herzerfrischend），明るい（fröhlich），気だてのやさしい（sanft，zärtlich）女性を求めているようだ[22]。男性にはまだ，女性がやさしさ，明るさ，暖かさなどを生かして男に仕えるという伝統的な期待があるだろう。このように，ドイツでも女性が望んでいる役割と男性が女性に期待している役割は微妙に違うのである。

4．「可愛い女性」はいつからか？

『江戸語の辞典』を引けば，「可愛い」という言葉に，二つの意味があげられている。1）ふびんだ。かわいそうだ。2）愛すべし。いとしい[23]。現代にもあるもう一つの意味はまだなかったのであろう。それは，小さくて子供らしさなどで，人をほほえませるような様子（『日本国語大辞典』の3），4），つまり，物や人間を些細なもののように見せている，という意味である。

江戸時代には，一般的には女性は愛すべきものとしてさえも扱われなかったのであろう。誤って貝原益軒の著と伝えられた，封建道徳を説き，女性一般の修身書として広く読まれた教訓書である『女大学』[24]には，「可愛い」という言葉がない。振る舞いや服装などに関する規則はあるが，細かい指示はない。多くの規則はいけないことについて，つまり禁令である。従って男女関係，女性と家族の間の関係が大雑把にしか見えてこない。例えば，女性は夫や夫の両親に従わなければならないという規則がある。そして「女は容よりも，心の勝れるを善とすべし。（中略）女は，唯和ぎ順ひて貞信に，情深く静なるをよしとす」[25]と指摘されている。つまり，女性には美しさより美徳が大事であり，従順・貞操・情けや静かな気性が必要であるとされた。「身の荘も衣裳の染いろ模様なども，目にたたぬやうにすべし。身と衣服とのよごれずして潔なるはよし。（中略）只わが身に応じたるを用ゆべし」[26]と，女性は飾りや目立つ服を身につけてはならず，実用的な服を着るべきであるという厳しい規則もあった。女性にどのような行動が期待されたかがうかがえるこのような指示は現代の女性

雑誌の細かいアドバイスとかなり違うのである。江戸時代の人間は現代と違って，可愛さのような，振る舞い方の微妙なテクニックなどには注意を払う余裕がなかったのだろう。しかし，昔から女性のためには指針や規則があった。江戸時代と現代の一つの共通点であろうが，昔も今も，男性に，どのような男になるべきか，女性に対してどのように振る舞うべきかなどと教える教訓書や雑誌のアドバイス記事などはあまりないのではないか。

「可愛い」と言えば，そのイメージの成立には音楽界の一つの現象が寄与したと考えられる。それは70年代に現れた「可愛子ちゃん」という現象である。「可愛子ちゃん」は芸能プロダクションが生みだした，若い聴衆の好みを引く，多くの場合20歳以下の女性歌手であった。例を挙げれば，松田聖子という名前が浮かんでくる。その歌手たちの演出や衣装は若さやあどけなさのイメージにアクセントをおいたりして，それぞれの歌に付き添う身振りや手振りは振り付け師によってデザインされた。「可愛子ちゃん」の多くは二，三年活躍しただけで人気を失ったが，人気が続く歌手は段々とより洗練されたポップスを歌いはじめた[27]。この歌手達の若さやあどけなさのイメージが現代の意味での「可愛い女性」のイメージを形成した一つの要素であると考えられる（音楽についてはこの論文集の山根宏氏の論文を参照）。

おわりに

「これは日本男性独特の受け取り方のようです。女の子はこうであるべきだという固定観念がまだまだ強い。とにかく，可愛いほうがいい，素直なほうがいい，控えめなほうがいい。人によって好みが違うし，だいぶ変わってきたといっても，なんとなくいつもそこに基準がある」[28]，と田丸美寿々というキャスターは呆れて指摘している。「可愛い」，「素直な」，「控えめな」という言葉が繰り返して現れているが，「可愛い」というのは何かについて，意見が人によって異なっている。

まとめて言えば「可愛い」という言葉には多様性がある。男性にとっては英語の「pretty」という意味もあり，「cute」という意味もありうる。「可愛い女性」は男性を母親のように守ったり，男性に子供のように甘えたり，男性の前で恥ずかしがったり，素直に振る舞ったりする。「可愛さ」は男性の目にとって様々な形で現れている。

「〈かわいい〉と思ったときあなたはそれをどうしますか？ 1）ぎゅっと抱きしめる。2）こわす。殺す。3）そっとしておく。4）もっとかわいくさせる。〈かわいい〉の世界はさかさまの世界だ。弱いものが力をもち強いものを従わせる。〈かわい

い〉の世界では醜いものが美しくなる。小さいものが大きくなる。恥ずかしいものが大切なものになる。恐ろしいものが愛しいものになる。死んだものが生を受ける」[29]。これは，「かわいい」をキーワードにした『美術手帳』の特集で，美術における「かわいい」のポリティクスがまとめられている。ここでは「かわいい」美術作品についての話だが，「かわいい」女性に当てはめることもできるだろう。弱いふりをして，女性は力を得て，強い男性を従わせる，というのは「可愛い女性」のテクニックの一つではないか。男性に，女性は自分が劣っていて無力であることを信じさせる，という男性を結局支配するためのテクニックである。「かわいい」振る舞いは男女関係をスムーズに働かせるためであるようだ。女性が「かわいい」というだけではなく，日頃特に若い女性が好ましいと思うものを見たとき，口をつく形容詞でもある。彼女たちは「かわいい」部屋に住んだり，自分の周囲を「かわいい」もので固めたり，「かわいい」服を着たり，「かわいい」レストランでデートしたりしている。このように，女性が自分の環境と調和して生活しているという幻想ができる。この，ありとあらゆるものに対して使うことのできる「かわいい」という言葉は日本の文化へのキーワードでもあると言えよう。

注

1 *Deutschland*, No.4, 8.1996, p.54.

2 Irmela Hijiya-Kirschnereit: *Das Ende der Exotik*, Suhrkamp, Frankfurt a.M. 1988, p.111.

3 例えば Ian Buruma: *A Japanese Mirror*, Jonathan Cape Ltd., London 1984, 第2章（The Eternal Mother, pp.17-37）.

4 Peter N. Dale: *The Myth of Japanese Uniqueness*, Routledge, London 1988, p.1.

5 Jane Condon: *A Half Step Behind*, Tuttle, Tokyo 1985, p.146.

6 1991年より，講談社発行，発行部数220,000部。20代・30代の女性を対象とした月2回刊誌。

7 諸橋徹次『大漢和辞典』（全13巻）大修館書店，1984年，2巻754頁。

8 James Legge: *The Chinese Classics* (5 Vols.), reprinted by Southern Materials Center, Taipei 1985, Vol. Ⅲ, p.62（『尚書』）.

9 北京外国語学院英語係《漢英詞典》編写組編『漢英詞典』，商務印書館，1980年。

10 『日本国語大辞典』（全20巻）小学館，1984年，5巻262頁。

11 同上，第3巻，262頁。

12 新村出編『広辞苑』第三版，岩波書店，1991年，524頁。

13 『知らない日本語』第5（井口樹生「身近な言葉の意外な意味ー動詞・形容詞編」）ご

ま書房，1988年，55頁参照。そこには，次のように書かれている。

「かわいい－女性に教えるワイ談対処法

女性の社会進出はめざましいが，学生たちの話によると，最近の女性は〈ワイ談〉にも進出してくるという。男性陣の話をはずかしがるどころか，積極的に体験談を公開する豪の者もいるというから恐れいる。性にオープンになるのは時代の風潮かもしれないが，こういう女性は，いくら顔だちや服装が〈かわいく〉てもほんとうに〈かわいい〉とはいえない。

はずかしがって顔が赤くなることを，古語で〈顔映し〉（かおはゆし）といい，それがいつしか〈かわいい〉となったのだから，女性はやはりワイ談には顔を赤らめたほうが〈可愛気〉がある」。

14　1981年より，講談社発行，発行部数870,000部。若い女性に向けた月刊カルチャー・マガジン。読者の77.6％は未婚である。

15　Jane Condon: *A Half Step Behind*, p.146を参照。Condon によると，「ブリっ子」は「可愛さを極端までする（中略），若くそしてわざと空ろに振る舞う」。

16　「憎らしい」（「憎い」）はことわざの中でも，「可愛い」の反対とされている。「可愛いは憎いの裏」とは，心の中では憎く思うものを，口先でわざとかわいいと言うこと。また，度を越えた愛情は憎悪に変わりやすいことのたとえ。

17　新村出編『広辞苑』第三版，岩波書店，1991年，1297頁。

18　引用はすべて『FRaU』による（1995年7月11日号）32－33頁。

19　Kanai Yoshiko: Hanako and the Consumer Society, *Japanese Book News* 13, Spring 1996 (The Japan Foundation), pp.1-3を参照。そこで，『Hanako』，『an-an』，『non-no』と『croissant』という女性雑誌が女性の新しいイメージを創造したと指摘されている（1頁）。

20　Ruth Linhart: Der Traum vom Glück, p.64 (in Linhart/Wöss (ed.) : *Nippons neue Frauen*, Rowohlt, Hamburg 1990, pp.54-67).

21　Ute Ehrhardt: *Gute Mädchen kommen in den Himmel, böse überall hin*, W. Krüger, Frankfurt a.M. 1996. このタイトルがTシャツに刷りこまれるほどドイツではヒットした。

22　*Die Zeit* Nr.6, 31.1.1997, p.80.

23　前田勇編『江戸語の辞典』講談社1994，282頁。

24　『貝原益軒・室鳩巣』日本思想大系34，岩波書店，1970年，201-227頁。

25　同上，202頁。

26　同上，204頁。

27　Linda Fujie: Popular Music, p.209 (in Powers/Kato: *Handbook of Japanese Popular Culture*, Greenwood Press, New York 1989, pp.197-220)

28　田丸美寿々『可愛い女はちょっと生意気』PHP文庫，1994年，15頁。

29　『美術手帳』2，1996年，特集「かわいい」，14-15頁。